

2017 年度「研究者の横顔」 畠山 鎮次先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

小さい頃から、部屋中に生き物を飼っていました。高校生時代から法医学に興味を持ち、その関連書を読み、医学部に進学することにしました。教養課程から医学部に移行してから、授業を抜け出して、司法解剖を見学していました。それと同時に、免疫学と神経病理学の研究室に出入りして、少しずつ研究を体験させていただき、論文にも加えていただきました。医学部卒業後、そのまま免疫学教室の博士課程に入学し、研究の道に入りました。

2. 助成研究の内容紹介

ひとを含めた生物の成分としてタンパク質がとても重要です。体の中のタンパク質は合成され、それぞれの働きを終えた後、一定のスピードで分解されていきます。私はその分解をつかさどる酵素の研究をしています。がんが発生する過程にもさまざまなタンパク質が働いておりますので、そのタンパク質を分解する酵素を見つけることでがん治療に役立つ研究を進めております。

3. 2の将来に繋がる結果予想

がんに関与するタンパク質の分解酵素を網羅的に見つけることで、診断や治療に役立つ薬剤の開発につながる研究を進めたいと考えております。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

本研究助成に採択していただき、誠に感謝申し上げます。この機会を生かして、がんに関する基礎研究、そしてそこから導かれる可能性のある診断法や治療法の開発を目指していきます。